



2022年12月26日
日本実業団陸上競技連合
TBS テレビ
毎日新聞社
群馬県

ニューイヤー駅伝×SDGs

世界初！燃料電池中継車を導入！
持続可能な社会実現を目指した取り組みについて

2023年1月1日に開催する「ニューイヤー駅伝 in ぐんま・第67回全日本実業団対抗駅伝競走大会」を主催・共催する4者は、国連が掲げる「持続可能な開発目標」(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現を目指したさまざまな取り組みを進めます。二酸化炭素排出ゼロの水素自動車の中継車として世界で初めて導入することも決定しました。

1 環境に向けた取り組み



・世界初！水素中継車の導入

TBSグループが脱炭素社会の実現を目指す取り組みの一環として導入した水素中継車『地球を笑顔にするくま』(以下：水素中継車)が今大会でデビュー！TBSグループの確認によると、世界初の導入となります。動力源に水素を使って発電するFCスタック(燃料電池)を採用し、走行時に地球温暖化の原因となるCO₂(二酸化炭素)を含め排気ガスを一切出さないため、後ろを走るランナーや沿道の観客の皆さまの環境ストレス軽減につながることを期待されます。

※12月31日(土)～1月1日(日・祝)には、群馬県庁1階のロビーにて、水素で走る中継車の仕組みなどを詳しく解説するパネル展示を行います。取材への事前申し込みは不要です。

※水素中継車について大会記者会見終了後、12月30日16時頃を目処に群馬県庁前にて実車を配置します。展示は1月1日のみとなります。取材への事前申し込みは不要です。

※水素中継車の詳細については、TBSテレビ発行のプレスリリースをご参照ください。



放送にも自然エネルギー由来の「グリーン電力」を使用

TBS テレビでは今大会の直前番組から競技本番を含め合わせて7時間の特別番組を、自然エネルギー由来の「グリーン電力」を使用して放送します。TBS 放送センターの使用電力や送出電力、群馬県庁に設置する放送センター等での使用電力、さらにJNN各局がローカル放送で使用する送出電力など、合わせて約11,400キロワットについて、TBSが既に購入している「グリーン電力証書(発行・日本自然エネルギー株式会社)」を充当します。これによって、約5.2トンCO₂(t-CO₂)分の二酸化炭素排出が削減されることとなります。

※詳細については、TBS テレビ発行のプレスリリースをご参照ください。

・大会関係者全体によるフードロス、ゴミの減量への取り組み

大会をサポートする沿道市町、群馬陸上競技協会と連携し、資料のペーパーレス化などを通じたゴミの減量に取り組みます。また、関係者に配布する弁当の食べ残し(フードロス)にも一層取り組んで参ります。

2 豊かな社会の実現に向けた取り組み



・日本を代表するトップアスリートと子どもたちの交流

12月30日(金)午後3時から開催する今大会注目選手の記者会見に群馬県の中学生・高校生を招待。日本を代表するトップランナーへの質問コーナーや会見後には記念撮影会も予定しています。

※会場での取材は、事前に大会への取材申請をされたメディアの方に限らせていただきます。

12月31日(土)には、大会前日に控えたランナーの練習見学会を小学生・中学生・高校生を対象に行います。

※取材への事前申し込みは不要です。詳細は添付資料「ニューイヤー駅伝前日練習見学会の開催について」をご参照ください。

また、2023年1月1日(日)のスタート直前には、出場全37チームの1区走者が地元の小学生による「エスコートキッズ」と共に入場します。

※会場での取材は、事前に大会への取材申請をされたメディアの方に限らせていただきます。

こうした取り組みを、TBS テレビ、毎日新聞社は今後もSDGs実現に向けた取り組みを広げて参ります。

リリースに関するお問い合わせ先

TBS ホールディングス 社長室 SDGs 企画部 担当 井上 Tel 03-5571-2541

毎日新聞社事業本部スポーツ事業部 担当 杉本 Tel 080-8469-7514